

中国四国地域の黒毛和種雌牛の飼養頭数の推移と課題 ―増頭に向けて―

○吉ざわ努¹・高橋和裕²・盛山昌二郎³

(¹家畜改良センター鳥取牧場・²香川県畜産試験場・³家畜改良センター個体識別部)

【目的】農林水産省畜産統計（以下「畜産統計」という。）によると、我が国の肉用種雌牛は、平成22年をピークに減少している。このような状況の中、平成27年3月、食料・農業・農村基本計画、酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針等が策定され、緊急に対応すべき課題の1つとして、繁殖雌牛の増頭があげられている。ここでは、畜産統計、(独)家畜改良センター牛個体識別全国データベース（以下「牛個体識別全国データベース」という。）から中国四国地域等の黒毛和種雌牛の生産・供用状況を検証したので報告する。【方法】畜産統計、牛個体識別全国データベースから雌牛の飼養頭数、雌牛の出生数、雌牛の移動状況、黒毛和種以外から生まれた黒毛和種数、繁殖供用率などのデータから黒毛和種雌牛の増頭について検証した。なお、牛個体識別全国データベースについては、(独)家畜改良センター個体識別部にデータの抽出を依頼した。【結果】畜産統計による子取り雌牛頭数、出生頭数、牛個体識別全国データベースによる雌牛飼養頭数を見ると、平成22年度以降減少傾向にあったが、このところ下げ止まり感がある。また、中国四国地域の雌牛の移動については、中国地域は県外からの導入は少なく、繁殖雌牛の確保は自県での生産が重要と考えられる。黒毛和種以外の牛から生産される黒毛和種については、ホルスタイン種等を受胎牛とした受精卵移植によるものと考えられ、ここ数年黒毛和種子牛価格の高騰を背景に増加傾向にある。一方、黒毛和種雌牛における生産かつ分娩報告があった雌牛（繁殖供用されたと思われる）の割合は減少傾向にあり、繁殖雌牛頭数の減少につながっていることも考えられる。ホルスタイン種による黒毛和種生産については、ホルスタイン種雌牛が減少傾向にあることから、黒毛和種の増頭のためには、雌牛の保留、繁殖牛としての利用を進めていくことが重要と考えられる。

平成28年度第66回関西畜産学会香川大会